

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	千葉県	市町村名	鎌ヶ谷市	大学名	
派遣日	令和6年8月6日(火) 9:45~9:55 講師の先生と事前打ち合わせ 10:00~12:00 研修				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 ☒ 派遣 / 遠隔				
派遣場所	鎌ヶ谷市立図書館				
アドバイザー氏名	大正大学 教授 中川 祐治				
相談者	鎌ヶ谷市教育委員会 学校教育課指導室 参加者：日本語指導担当及び日本語指導講師				
相談内容	本市で外国人児童生徒が年々増加しているが、日本語指導に携わる講師の研修機会が少ないため、こちらの事業に依頼し、講師の先生を派遣していただき、研修を受ける機会をいただいた。また、本市が学校派遣している日本語指導講師は、長く経験している方と、最近始めたばかりの方もいるため、研修内容の主として、教科指導に関連した実践的な日本語指導の在り方を中心に、個に応じた指導など、具体的な事例を提示していただきたいとお願いした。				
派遣者からの指導助言内容	(1) 千葉県の外国人児童生徒等の受入れについて(以下の3点について紹介) ・「千葉県外国人児童生徒等教育の方針」 ・帰国・外国人児童生徒の日本語指導担当者連絡協議会 ・教材リスト (2) 東京都の外国人児童生徒等の受入れ(以下の3点について紹介) ・「日本語指導推進ガイドライン」 ・「日本語指導ハンドブック」 ・「外国につながる生徒への指導ハンドブック」 (3) 日本語指導プログラムとコース設計について 【日本語指導プログラム】 ・①「生活のための日本語」プログラム(サバイバル日本語) ②「日本語基礎」プログラム ③「技能別日本語」プログラム(聞く、話す、読む、書く) ④「内容と日本語の統合学習」プログラム (トピック型、教科志向型、プロジェクト型)				

(様式 3)

	【発達段階による言語習得の特徴】 ・日本語のコース設計をする際には、児童生徒の発達段階（小学１～３年、小学４～６年、中学生、高校生）を十分に考慮することが重要であり、発達段階に合わせた指導が必要である。 【日本語指導のコース設計】 ・コース設計の流れとして、児童生徒の実態把握、日本語の目標設定、学習内容の決定とコース設計、指導方法の決定、評価方法の決定となる。 講義後半では、中川先生が普段の日本語指導で使用している教材の紹介をしていた だくとともに、参加者が普段使用している教材の紹介及び共有の場面を設けた。 まとめとして、児童生徒の実態把握、発達段階、習得状況をふまえて、プログラム、 コースを設計すること、教材・教具、教え方のヒントは身近なところにあり、今使用 している教材で十分指導ができるということ、また、できること、できないこと、す べきこと、しなくてもよいことの優先順位を決めて日々の指導をしていくとよいとの ご助言をいただいた。
相談後の方 針の変化、 今後の取組 方針等	参加者からは以下の意見が聞かれた。 ・基本的なことや支援内容の具体例を示していただき、とても勉強になりました。 ・紹介していただいた資料等素晴らしく、是非使ってみたいと思いました。 ・指導の流れ、方法等について、大変わかりやすい研修会でした。 ・児童生徒の個人差がとても大きく、一人ひとりへの配慮がとても大切だと改めて感 じました。 ・日本語指導において、どう生徒を見取っていくかヒントをもらいました。 ・生活言語能力、学習言語能力、自己実現のための力を育てていくことが大事だと思 いました。 今後の取組等については、本市の外国人児童生徒の数が増加する中で、指導者の育 成が急務であることも実感できた。また、中学生は進路についての支援も必要となり、 国の方向性を理解しながら、学校と連携を図り、支援に携わっていきたい。 更に、市教育委員会、学校、日本語指導教員、日本語指導講師、また必要に応じて 多文化共生センター等の機関と連携を図りながら、外国人児童生徒の日本語指導の充 実を図っていきたい。

１枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。